



1年間の締めくくり

いよいよ平成29年度も最後の月を迎え、授業日数も残り15日となりました。6年生にとっては、卒業式まで10日余りの登校となります。3月は学校にとって、1年間の学習や学校生活の中で様々に関わってきた多くのことについてまとめ、締めくくる月です。

きちんとまとめを行っていくことは、新たな出発への大きな自信となることは確かなことです。一人ひとりの子どもたちに、この1年を振り返って、「**何ができるようになったのか。**」「**何ができなかったのか。**」をしっかりと意識させ、**1年間の締めくくりと次の学年への準備をさせたい**と思っております。

振り返ると、子どもたちが学校生活の中で、様々な体験や学習を通して、学んできたことや、成長してきたことがたくさんあることに気づきます。身長や体重のように目に見える成長だけでなく、友達が増えたことや協力してやり遂げる力がついたこと、体力の向上やなわとびなどの運動の技能の向上もそうですし、漢字の読み書きや計算ができるようになるなどの知識や技能の向上もあげられます。

さて、平昌（ピョンチャン）オリンピックが終了しましたが、連日、日本選手の活躍が平昌の地から日本にも伝えられました。スケート、スキー、スノーボード、カーリングなど10代20代の選手が頑張る姿は、子どもたちに夢や希望を与えるすばらしいことだと思います。

今回のオリンピックで、子どもたちの心にどの選手の勇姿が残ったのでしょうか。けがなどにも負けず、一生懸命に、ひたむきに、あきらめずに競技に打ち込む選手を見て日本中が感動しました。そこから、子どもたちは、「努力は自分を助けるんだ」「あきらめないことが大切なんだ」「やればできるんだ」等、多くのことを学んだと思います。

「**人生の金メダル**」とか「**心の金メダル**」などもよく耳にする言葉です。ある事柄にこつこつと取り組み、物理的な成果が出なくても、人の心を打つような尊く気高いことに、我々は金メダルと同等の価値を置きます。それゆえ、人生の金メダルというような言葉が生まれるのだと思います。

また、子どもたちに、「めあてをもって取り組みましょう」とよく話します。目的意識をもって取り組む結果と漫然と取り組む結果の違いを、我々は経験として知っているからです。めあてをもってこつこつと継続して取り組むこと、たとえ大きな成果が出なくても、それが家族や周囲の人を支えているようなことは人生の金メダルの価値があります。オリンピックのメダルも大変価値があるけれど、何気ない身近な毎日の積み重ねもメダルと同等の価値ある輝かしい行為です。難波っ子たちにも、たくさんメダルが身近にあることに気づいてほしいと思います。